

令和4年度 県民カレッジ砺波地区センター運営会議議事録

日 時 令和5年2月3日（金） 14:00～15:30

場 所 砺波地区センター第1学習室

出席者 運営委員【8名】

仲井 文之（元富山国際大学 教授）

大家 芳夫（介護老人保健施設 ゆうゆうハウス 事務長）

塚崎志津江（小矢部市こども課 家庭児童相談員）

桐山 巧（雷鳥会砺波支部 支部長）

三輪 秀秋（前津沢地区自治振興会 副会長）

梅本 恵子（梅香園共同営業ハーブ・アロマコーディネーター）

高藤 孝一（小矢部市ボランティア連絡協議会 会長）

島谷 雅子（公募委員）

事務局【6名】

富山県県民生涯学習カレッジ 本部 1名

富山県教育委員会生涯学習・文化財室 1名

富山県生涯学習カレッジ砺波地区センター 3名

となみ野高校 1名

1 開 会 （司会：県民カレッジ砺波地区センター 島田副所長）

開会の挨拶（県民カレッジ砺波地区センター 林 所長）

2 参加者自己紹介

【事務局】コロナ禍により顔を合わせる機会がなかった。皆様に自己紹介して頂きたい。

（委員各位・事務局より自己紹介）

会長を引き続き仲井委員にお願いしたい。（拍手により全会一致の賛成）

【事務局】ここから仲井会長に進行をお願いしたい。

【進 行】以前の本会で様々な意見が出たが、その中で町内の回覧板にセンターの案内を出してはどうかとの案が出ていた。センターでは着実に意見を取り入れようと努力している様子を打合せの折に伺った。確実に意見を反映、実現させようと努力していることに敬服した。同時に、ここで協議することの大切さを感じている。本日も様々なご意見やご感想をいただきながら進めていきたい。

3 報 告（令和4年度砺波地区センター事業概要について）

【事務局】（スライド動画で示しながら本年度の講座の様子を説明）

・地区センターに関連する講座（主催講座、教養講座、共学講座、自遊塾）について

【事務局】（資料をもとに、本年度の事業内容の報告）

感染対策を行いながら講座を実施してきた。その中でわくわくシアターを津沢小学校と連携して行ったり、津沢地区の回覧板を利用し、講座紹介のチラシや、県民カレッジの大型講座の案内を回したりした。今後は、次年度の講座実施に向けて準備をしていく。資料には、講座受講状況などが示してあるので、ご覧いただきたい。砺波市・小矢部市・南砺市が受講

者の中心であるが、オンライン受講が始まり、他地区からの参加も多くなってきている。また、小学生および高校生がそれぞれ一名ずつ参加していた。アンケート結果には、大変好評価をいただき、うれしく感じている。

【進行】以前の会議では、地区巡りなどを企画してはどうかとあった。スライド内に写真があったが、様子はどうかであったか。

【事務局】地域の町巡りなどの講座を企画し、感染対策から人数を絞り実施し好評であった。

【委員】共学講座には内容の難しいものにも受講者がいる。例えば数学Bはベクトルなどの内容を取り扱っているようだが、受講の二名はどのような方か。

【事務局】お二人とも他にもいくつかの講座を受講している大変意欲的な方であり、内一名は審査にも臨まれるなどしていた。

4 審議（県民カレッジ砺波地区センターの運営に係る現状と課題）

【進行】話題提供を地区センターからお願いします。

【事務局】（運営会議資料をもとに4区分に分け、説明）

1「学習機会の提供」について、昨年同様、定員を絞って募集した。どの講座も、募集定員を超える応募があった。また、オンラインでの受講が本格的に始まり申込数が増え、遠方から受講している方がおり、修了率も高い。わくわくシアターについて、本会議の委員の方から小学生も参加できるものを企画してほしいとの声があったことから、津沢小学校と提携し、3回実施し、のべ67名の児童が参加した。その際、講座の案内やチラシの配布を行ってもらっている。また、以前の会議で富山県映像センター作成の映像をわくわくシアターで利用してはどうかとの意見があったことから、映像センター作成の映像を利用した回を準備した。

2「学習情報の提供」について、学遊ネットが新しくなり見やすく、使いやすくなっており、学習情報が得やすくなっている。こちらとしても、最新の情報を素早く発信できている。

3「学習相談」について、相談件数は昨年度よりも減っている。昨年度はコロナの影響で様々な相談や質問の電話が多かった。本年度は状況の変化とともに、学遊ネットが利用しやすくなり、学習情報、講師情報が得やすくなったことも相談減少の要因ではないか。

4「学習交流」について、キャンパスフェスティバルをとなみ野高校と連携して行った。4つの学習団体からの参加があり、充実したものとなった。共学講座の受講の方が生徒と共にステージ発表をするなどしていた。

その他として、本年度、津沢地区への案内などの資料回覧を行った。小矢部市には全戸配布の仕組みがあると聞いている。今後はその利用も考えていきたい。

【進行】事務局からは、話題提供に沿って4つの区分に分けて、審議したいとの申し出だが、順不同ですすめたい。

【委員】小学生対象のわくわくシアターの開催は、素早く実施してもらった。センターを早くから知ってもらおうなどよい取り組みだと思う。子ども達は、どのような様子だったか。

【事務局】第2学習室を利用して行っている。行儀よく過ごしている。内容としては、コミカルなものだけではなく、教育的、道徳的なものも含めた。

- 【事務局】公共の施設を利用しているという緊張感が子どもにはみられ、参加の子どもにとって勉強になっているなど感じた。
- 【委員】講座のテーマ設定について、地元でテーマを絞ったものを準備してほしい。今年は、棟方志功生誕120周年であり、これに連携した企画が他の学習施設に多くある。地元の偉人・有名人をさらに紹介してほしいと考えている。若い世代へのアピールにもなるのではないか。
- 【進行】地域に根ざした活動こそが、地区センターの役割であろう。
- 【委員】小矢部市でハーブ教室を行ってきたが、年々受講者が増えている。地元をテーマとしたものは需要が多いのではないか。講座では、小さな集団での活動がアットホームな雰囲気で行える良さがある。以前、砺波地区センターではハーブを蒸留したり、石けんを作ったりしたことがある。
- 【委員】講座受講は、募集案内を見て興味のあるものを選んで受講している。コースの中の特に興味のある1回だけの参加は、抽選で他の希望者が受けられなくなることに気兼ねを感じる。受講料自体は高いとは感じない。
- 【事務局】単位は7割以上での修了としている。1回の参加では単位が取得できず受講料もかかるが、可能ではある。県民カレッジでは、徐々に募集定員を引き上げている。申し込みやすくなると考える。
- 【委員】小矢部市内全戸配布は、市役所と相談して進めることになると思う。これらを利用してさらにPRを進めていくとよい。また、津沢小学校だけではなく、他の小学校とも広げていけばどうか。
- 【委員】雷鳥会の取り組みがあまり知られていない。雷鳥会でも講師を呼び活動を行っている。雷鳥会のHPなどを利用してPRをしていかなければならない。講座欠席の際に、講座内容を学遊ネットで挙げてもらえるとうれしい。また、申込の参考に講師のプロフィールなどを載せてもらとうれしい。
- 【進行】雷鳥会の存在は、県民カレッジを支える大変重要なものである。
- 【委員】オンラインの利用が広がっていることを感じている。過去のこの会議の意見が、十分活かされている。
- 【進行】申込みの仕方にQRコードを利用するなど、申込み方法が多様化している。受講者は使いこなしているか。
- 【事務局】オンライン自宅受講は、令和3年度から実施し、徐々に利用が増えている。少しずつ定着してきている。他地区ではキャンパスフェスティバルなどでzoomの体験教室なども行っている。申込み方法の多様化については、本部の大型講座においてオンライン申込みは2～3割程度の利用がある。
- 【委員】新規受講者の取り込みについて、定年延長なども影響があるのではないか。仕事をしている人をどうやって取り組むべきか。募集案内を目にすることで、参加したくなるものも多いであろう。受講者からの声が配布の資料に記載されているが、地区センターへの要望などはないのか。
- 【事務局】今年度のアンケートの中には、コロナ収束がみえてきたことから、講師がマスクを外してもよいのではないかと。表情を見て、話を聞きたかったとの要望があった。
- 【進行】地区センターでのコロナ感染症の影響はあったか。

【事務局】昨年度は講師が直前に発症し、日程を変えたことがあった。また、サーキュレーターを利用したり、休憩中に換気をしたりして運営している。

【委員】勤め先では、高齢で出歩けない方がDVDで学習を楽しんでいる様子がある。

【進行】県民カレッジの受講者の平均年齢は以前、60代だった。現在は70代になってきている。若い方に足を運んでもらう県民カレッジになる必要があるのではないかな。

【事務局】地元で活躍する若い方が講師をされた場合、若い方の受講もみられる。先の委員の方のお話しの通り、身近に活躍している講師の方を掘り出していくことが重要ではないかな。

【進行】共学講座における高校生の様子はどうか。

【事務局】アンケートを見ると、社会人受講者の姿を見て、刺激になっているとのことである。また、授業の雰囲気はよくなったとの意見もみられる。

【事務局】以前は、手続きに受講者、事務職員双方に、負担があったが開講式の実施方法を変更し収納方式を変えたことから効率化ができた。

【進行】地区センターから何かあるか。

【事務局】PR方法や新規受講者の増加に何かお知恵をいただけないかな。

【事務局】パンフレット、印刷物の利用と併用して、地区センターの動画を利用してアピールすることができないかな。外部の様々な機会でもPR動画を放映し、紹介してはどうか。情報収集手段は増えているが、情報は限られたものしか入手しない。新規利用者を増やすには動画は有効である。

【委員】若い世代へのPRに、募集要項とは別に、講師紹介などを利用したポスターや動画を流すことで、気軽に見てもらえることは可能ではないかな。

【進行】冊子の配布先はどのようになっているか。実際に手にとってもらえる場所を模索する必要がある。サロンで動画を流すなどもよいのではないかな。

【事務局】各社会教育施設、公共施設に配布している。若い方に募集要項冊子を手にとってもらえる場所を新たに考えてみたい。

【委員】アウトレットなどに置いても来場目的が違うので手にとってもらえない。全方位での発信では労力がかかる。考えて設置する必要がある。

【進行】アンケートなどを利用し、効率的に情報を発信できる方法を考えてはどうか。

5 閉会の挨拶（県民カレッジ砺波地区センター 島田副所長）